

一般財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団 2019 年事業報告書

(2020 年 2 月 3 日～2020 年 3 月 31 日)

一般財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団（以下、「本財団」という。）は、2020 年 2 月 3 日に 302 名の拠出により一般財団法人として、泉北地区及びその周辺に暮らし、はたらく人たちが幸せに暮らすことができる地域の未来をつくるために、市民や企業の皆様から寄付を集め公益活動を行う団体に助成することで、泉北地区の地域や社会の課題解決や活性化に取り組む。その最初の第 1 期を迎えた。

人口減少や高齢化、非正規雇用の増大等、切実な社会課題・行政課題が顕在化する中、これらの課題に行政だけでは対応することが困難な状況である。このような状況において、地域や社会の課題解決や活性化に取り組む主体として公益活動を行う団体に対する期待は大きい。しかし、一方で多くの公益活動を行う団体は財政的基盤の脆弱さという課題を抱えており、公益活動を行う団体の活動を地域社会で支える仕組みの整備や、地域主体での公益活動の強化が必要となっている。

このような状況に対応すべく、当法人は、あらゆる人たちが主体的に地域の未来を担い合うために、必要な資源を循環させる仕組みをつくり、地域で支え合う社会を実現するための事業を理事会で事業構築を進めてきた。

令和 2 年度は、準備してきた事業計画をベースに、地域と時代のニーズをしっかりと把握・反映した事業モデル開発としてコレクティブインパクトの手法を取り入れ、財団としてモデル事業をモデル地域を設定し事業化を行いプログラム開発を行う。また、組織の持続可能な事業のため、助成等の資源提供事業を本格稼働し、公益法人認定をめざす。

平成 31 年度（令和元年度）事業全体の成果

1. 一般財団法人を設立した

設立準備室が募った 302 名の市民の寄附を活かすため、理事会には地元経営者、IT 企業経営者、社会福祉法人理事長、マーケットター等を迎え、地域に新たな資源を循環させる仕組みを検討するチームが生まれました。

2. 財団設立に至る資源を整理した

多様な設立発起人の思いと、泉北地区を中心として起きている取り組みの結果で生まれた本財団だからこそ泉北地区を中心としたコレクティブインパクトの集積を取りまとめた。

1. プログラム開発・資金確保・事業化に向けた相談及び支援事業

(ア) 泉北地区におけるコレクティブインパクトモデルの開発

当財団および事業の周知・PRによる 新規助成先・事業の発掘及び、泉北地区の

持続可能な地域づくりをめざし、地域と時代のニーズをしっかりと把握・反映した事業モデル開発としてコレクティブインパクトの手法を取り入れ、財団としてモデル地域を設定し事業化をめざし基盤強化の取り組みを実施した。

(イ) 公益法人認定取得

公益認定委員会へ2020年度中に申請を行うため、大阪府公益認定委員会事務局の担当が決まった。

2. 助成、融資及び資源の提供事業

(ア) 助成事業開発

(イ) 助成事業の成果発表会の実施

上記2点について事業の準備をおこなった。

3. 調査研究・普及・啓発活動

(ア) 調査・研究事業

公益活動を行う団体の資金確保のためのプログラム開発として、主に小学校区での地域円卓会議の推進をサポートした。

<ケース1> 槇塚台レインボー

サポートを実施した槇塚台レインボーの会が設立し住友ゴム CSR 基金助成を受けることができた。地域資源と新たな資金の循環の仕組みが生まれた。

日時	活動	参加	主な内容
2020年 2月1日	地域円卓会議の開催 サポート	宝楽	槇塚台小学校区の地域の支え合いを自治会、福祉事業所、地域飲食店、ボランティアが「よろず相談」を実施し、一つひとつ解決する事業を実施しており。2019年度は毎月円卓会議として開催してきた。

<ケース2> スマートエイジング・シティネットワーク会議（仮称）への参画

スマートエイジング・シティの具体化に向けた取組を府内に広く普及させ、府民の健康寿命の延伸と住民のQOLの向上を目指し、府内各地域の取組を関係者間で共有することを目的として開催。

日時	活動	参加	主な内容
2020年 1月22日 (水)	スマートエイジング・ シティネットワーク 会議 @大阪府庁	宝楽	大阪府スマートエイジングシティの具体化策を河内長野市南花台などの取り組み紹介後、泉北ニュータウンでの実現について議論が行われた。 ●主な参加者 堺市市長公室 大阪府住宅供給公社 愛眼株式会社 社医 生長会

			帝塚山学院大学 堺市市長公室 大阪府都市居住課 ソフトバンク りそな銀行 大塚製薬工場 NPO 法人 SEIN：宝楽様
--	--	--	---

4. 管理業務

1 法人業務

(1) 評議員会、理事会の開催

理事・監事の積極的な参加を得て、理事会の活性化を図った。設立第 1 期のため、評議員会は R2 年度に開催される。

ア 評議員会

設立第 1 期のため、評議員会は R2 年度に開催されず。

イ 発起人会

日時	会議の種類	主な内容
2019 年 12 月 29 日	設立者総会	設立時評議員，設立時理事及び設立時監事について次のとおり選任及び決定

ウ 理事会・監査等

日時	会議の種類	主な内容
2020 年 1 月 15 日	設立前理事会	[協議] 中長期計画
2020 年 2 月 27 日	第 1 回定例理事会 @茶山台 19 棟	[議決] 助成金事業申請の決定 [協議] 事業計画案について
2020 年 3 月 22 日	第 2 回定例理事会	[協議] 事業計画案について [報告] 助成金事業申請について メディア掲載について

エ プロジェクトミーティング

毎週 1 回担当理事・スタッフで事業構築の会議を開催。

平成 31 年度（令和元年度）事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。以上

一般財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団 2020年度（令和2年度）事業報告書 （2020年4月1日～2021年3月31日）

一般財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団（以下、「本財団」という。）は、2020年2月3日に302名の拠出により一般財団法人としてスタートした。住民のチャレンジを下支えするために必要資源を分配するために、さまざまな地域資源を募り、新たな地域課題に気づき、行動する人が増え、自分たちのまちがより住みやすくなるように「温かいお金」が地域でまわるためのコーディネートの実証に取り組んだ。また、資源を集め、社会的事業に取り組む事業者への分配するための助成金の実施し、コミュニティ財団としての一步を踏み出した。

2020年度事業全体の成果

事業開始の矢先、新型コロナウイルス感染症の拡大を発端とし、私達の社会や世界のあり方を一変した。感染拡大による影響を受けて困難を抱える人を対象にした市民の取組みが拡大しました。泉北地域に限らず、世界全体でその取組が求められた。そこで、大阪府に事務所を持つまたは活動しているNPO・NGOに支援を行う「みんな同じ空の下 私と地域と世界のファンド」を関西NGO協議会、大阪ボランティア協会、泉北のまちと暮らしを考える財団の3団体で立ち上げた。その結果、7,960,448円の寄附を募り、寄附を原資として助成プロセスへと移行し、支援総額から35団体に支援を実施した。

設立発起人（サムズ）からは、泉北地区の子どもたちを支える活動を応援するからはじめようという期待を受けて法人設立に至りました。そのために、泉北ニュータウンの子ども・保護者の実態を把握するためのアンケート調査から開始しました。4月と7月に茶山台小学校で実施したアンケートでは、感染拡大に伴い社会的孤立を原因とする、子どもたちに様々な課題が生じていることがわかりました。さらに家でも学校でもなく、子どもが自分の居場所と思えるような活動は、縮小あるいは中止せざるを得ない状況です。そこで、泉北子ども未来基金では、子どもを支える居場所づくりや学習支援、心のケアなど、緊急支援活動を実施する団体（泉北ニュータウン・堺市中区・南区・和泉市及び上記外の大阪府で活動を行う団体）を、約70万円の資源を元に支援するプロジェクトとして2021年4月から公募を行い助成するプログラムの計画を実施した。

法人設立準備室に賛同いただいた設立発起人（サムズ）102名で整理した子どもを中心に地域課題解決を捉え、地域の子どもの支える居場所づくりや学習支援、心のケアを行う団体のネットワーク化を構想していた。その構想を堺市南区へ提案を実施した結果、

子どもたちがすこやかに成長できるよう見守っていくことを目的にしたプラットフォーム組織の検討を行っており、令和2年3月21日に堺市南区子ども応援プラットフォーム「ココカラ」が設立した。本事業年度では、堺市南区子ども応援プラットフォーム「ココカラ」

ラ」の発起人会が立ち上がり運営方法の議論を行い、財団が事務局へ就任することになり、連絡調整から資源の仲介を開始している。

1. プログラム開発・資金確保・事業化に向けた相談及び支援事業

(1) 泉北地区におけるコレクティブインパクト（社会課題解決の新しいモデル事業）の開発

新規助成事業の発掘、地域と時代のニーズを把握し反映した事業モデル開発のためコレクティブインパクトの手法を取り入れ、モデル事業を設定し、ニュータウンにおける課題解決事業への伴走支援を実施した。

①家事負担軽減の取り組み泉北流配食「おかず BOX」のコーディネーション

茶山台小学校アンケート調査（2020年4月実施）での課題把握を元に、「家事をキッカケ」に家庭につながるアウトリーチ型子ども食堂実施へのアドバイスと校区での調整を支援した。

モデル地区	茶山台／竹城台東／福泉中央
成果	平均78食／回・合計501食提供(2021年1月現在)
協働の相手	おかずボックス発起人 竹城台団地寺子屋 福泉中央区民生児童委員 茶山台としょかん 特定非営利活動法人 SEIN

②泉北ニュータウンのコミュニティ活動を応援する拠点「泉北 LAB」計画の構築 事業実施に拠点整備が必要になり候補地を選定した

協働の相手	みどり学園大阪健康福祉短期大学堺・泉ヶ丘キャンパス 大阪府(NPO等活動支援による社会課題解決認定事業)
内容	①地域への寄附についての相談窓口の設置 ②泉北ニュータウンでの活動相談窓口の設置 ③フードパントリーの調理可能なシェアキッチン

③小学校区での地域円卓会議開催支援事業

小学校区での地域円卓会議開催サポートとアドバイスを実施した。

<ケース1>よろず相談ネットワーク レインボー榎塚台

- ・住友ゴム CSR 基金助成への伴走支援
- ・大阪府地域包括ケアシステムプロジェクト型支援「大阪ええまちプロジェクト」へのマッチング

*レインボー榎塚台について・・・みんな住みよい地域になるように、誰もがちょっとした日常のしんどいことを出し合って、ご近所でさりげなく助け合いができるような仕組みづくりを目指している「よろず相談ネットワーク レインボー榎塚台」。泉北ニュータウンの榎塚台エリアで活躍する住民ボランティア・専門職の皆さん（連合自治会長、子ども食堂

運営者、就労継続支援 B 型作業所、介護福祉士、ケアマネジャーなど）が集まり、地域で生活する人々の困りごと・悩みごとを一緒に考えています。これまでに制度の間の出来事なども、住民さんの意思を尊重する形で協力し合って解決した事例も生まれています。

<ケース 2> 団地版 ICT 見守りシステムの調査研究のサポート

NICT（情報通信研究機構）と茶山台団地自治会による ICT の取組みについてアドバイスを実施した。

2. 助成、融資及び資源の提供事業

(1) 助成事業開発

助成金のオンライン申請など助成管理業務（募集・申請・選考・助成・実行・検証事業等）を実施した

① みんな同じ空の下 私と地域と世界のファンド

寄附総額 7,960,448 円

支援団体数 35 団体

② 子ども未来基金

寄附総額 710,150 円

支援団体数 2021 年度に公募予定

(2) 他地域助成事業開発のサポート

全国コミュニティ財団協会準会員として、会員サポートを実施した。

① 一般社団法人全国コミュニティ財団協会「47 コロナ基金」でのオンライン申請・運営サイトの設計支援

② 一般財団法人くまもと SDGs 推進財団「熊本災害基金」にてオンライン申請システム構築の支援

(3) 助成事業の成果発表会の実施

緊急事態宣言及び大阪府新型コロナ感染拡大赤信号の影響で実施できず。

3. 調査研究・普及・啓発活動

(1) 調査・研究事業

下記、調査をサポートした。泉北子ども未来基金の開発のエビデンスを得られた。

① 茶山台小学校 PTA 第 1 回 子どもたちの暮らしについてのアンケート及び新型コロナ対策に関する子どもや保護者への影響について（大人アンケート）

回答数	小学生 53 名・保護者 89 名（児童数 217 名）
調査期間	令和 2 年 4 月 21 日～24 日・5 日間

② 茶山台小学校 PTA 第 2 回 子どもたちの暮らしについてのアンケート及び保護者ア

ンケート

回答数	小学生9・保護者51名（児童数217名）
調査期間	令和2年7月15日～22日・7日間

- ③ 堺市南区子ども応援プラットフォーム「ココ×カラ」緊急事態宣言下の活動実態調査

回答数	12団体
調査期間	令和3年2月1日～21日 3週間

（2）設立記念事業の実施

緊急事態宣言及び大阪府新型コロナウイルス感染拡大赤信号の影響で実施できず。

4. 管理業務

（1）法人業務

①公益法人認定取得

持続可能な財政の確保のため寄附呼びかけを実施するも、新型コロナウイルス感染症の拡大による幾度の緊急宣言のため、安定的な収入につなげることができなかった。次年度は公益認定等委員会へ申請を行う。

②理事会の開催

理事・監事の積極的な参加を得て、理事会の活性化を図った。

評議員会

日時	会議の種類	主な内容
2020年8月13日	書面表決	第1号議案 令和元年度計算書類等の承認 第2号議案 理事増員の選任

理事会・監査等

通算	日時	会議の種類	主な内容
3	2020年4月22日	第1回定例理事会	[報告] 助成金申請結果 要望書提出 [議決] 事業計画案について 公益法人化 今後のスケジュール ワーキングチーム設置
4	2020年5月27日	第2回定例理事会	[報告] IT見守りについて [協議] 報告書・決算書承認 私と地域と世界のファンド 子どもコレクティブインパクトについて

5	2020年6月24日	第3回定例理事会	<p>[報告] IT見守りについて HP立ち上げ</p> <p>[協議] 私と地域と世界のファンド 子どもコレクティブインパクトについて</p>
6	2020年7月22日	第4回定例理事会	<p>[報告] 私と地域と世界のファンド結果 第2回子どもアンケート 熊本水害支援の現地コミュニティ 財団支援 全国コミュニティ財団協会総会の開催</p> <p>[協議] NICTとNDA締結 個人情報保護規定 子どもを中心としたコレクティブ インパクトの動き 助成金申請案</p>
7	2020年8月26日	第5回定例理事会	<p>[報告] 私と地域と世界のファンド助成先決定 助成金申請報告</p> <p>[協議] 子どもコレクティブインパクト基金設置の準備</p>
8	2020年9月23日	第6回定例理事会	<p>[報告] 私と地域と世界のファンド助成先決定 助成金入金完了 NICTとのICT地域見守りスキーム 子どもコレクティブインパクトの進捗共有 子ども・保護者アンケートのクロス集計報告</p> <p>[協議] 子どもコレクティブインパクト基金設置 持続可能な収入の確保について</p>
9	2020年10月28日	第7回定例理事会	<p>[報告] 面会報告 団地コンバージョン事業報告</p> <p>[協議] プロジェクトの進め方の方針変更 休眠預金資金分配団体へのエントリー 「ココ×カラ」事務局引き継ぎ 47コロナ基金大阪/泉北基金の準備</p>
10	2020年11月25日	第8回定例理事会	<p>[報告] 面会報告 「ココ×カラ」会議の開催</p> <p>[協議] 泉北子ども基金のテーマ 休眠預金資金分配団体へのエントリー 財団事務所について</p>
11	2020年12月23日	第9回定例理事会	<p>[報告] 「ココ×カラ」の進捗 休眠預金資金分配団体へのエントリー 泉北子ども未来ファンド開始</p> <p>[協議] 事務所について</p>
12	2021年1月27日	第10回定例理事会	<p>[報告] 「ココ×カラ」の進捗 [報告] 「ココ×カラ」の進捗 泉北子ども未来ファンド報告 私と地域と世界のファンド報告・監査</p> <p>[協議] 事務所について 助成金申請案件等 プラットフォーム参画について</p>
13	2021年2月24日	第11回定例理事会	<p>[報告] 「ココ×カラ」アンケート報告 休眠預金資金分配団体通知 私と地域と世界のファンド報告・監査 助成金申請報告</p> <p>[協議] 次年度上半期の動きについて 大阪府助成金申請 泉北子ども未来ファンド助成金</p>

14	2021年3月24日	第12回定例理事会
----	------------	-----------

プロジェクトミーティング

毎週1回担当理事・スタッフで事業構築の会議を開催。

2020年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

以上

貸借対照表

別紙1①

一般財団法人 泉北のまちと暮らしを考える財団

自 2020年 02月 03日 至 2020年 3月31日

(単位:円)

資産の部		負債の部	
【流動資産】	3,035,026	【流動負債】	14,890
現金・預金	3,035,026	短期借入金	0
		未払金	14,890
		未払費用	0
		預り金	0
【固定資産】	0	前受金	0
【有形固定資産】	0	一年以内返済長期借入金	0
建物附属設備	0	【固定負債】	0
工具器具備品	0	長期借入金	0
【投資その他の資産】	0	負債の部合計	29,780
差入保証金	0	純資産の部	
		【株主資本】	3,020,136
		利益剰余金	0
		その他利益剰余金	0
		繰越利益剰余金	3,020,136
		純資産の部合計	3,020,136
資産の部合計	3,035,026	負債及び純資産合計	3,035,026

損益計算書

別紙1②

一般財団法人 泉北のまちと暮らしを考える財団

自 2020年 02月 03日 至 2020年 3月31日 (単位:円)

【売上高】		
寄付金収入	3,135,026	
売上高合計		3,125,026
【販売費及び一般管理費】		
販売費及び一般管理費合計	114,890	114,890
営業利益金額		3,020,136
【営業外収益】		
受取利息	0	
雑収入	0	
営業外収益合計		0
【営業外費用】		
支払利息	0	
雑損失	0	
営業外費用合計		0
経常利益金額		3,020,136
税引前当期純利益金額		3,020,136

帳票名:仕訳日記帳

別紙1③

一般財団法人 泉北のまちと暮らしを考える財団

自 2020年 02月 03日 至 2020年 3月31日

(単位:円)

日付	No.	借方 勘定科目	金額	貸方 勘定科目	金額	事業分類	摘要	期日	番号
2020/01/06		普通預金	3,125,026	寄付金収入	3,125,026	公益目的事業	設立準備室より 寄付金受入		
2020/01/06		現金	100,000	普通預金	100,000	公益目的事業	登記手続きのため 現金引き出し		
2020/01/14	1	租税公課	53,750	現金	53,750	公益目的事業	公証人役場にて定款認証手続き		
2020/01/20	2	印刷製本費	90	未払費用	90	公益目的事業	資料コピー代		
2020/01/30	3	租税公課	60,000	現金	46,250	公益目的事業	設立登記 印紙代		
				未払費用	13,750	公益目的事業	設立登記 印紙代(宝楽 立替)		
2020/02/14	4	租税公課	600	未払費用	600	公益目的事業	謄本		
2020/03/03	5	租税公課	450	未払費用	450	公益目的事業	謄本(ETIC補助金申請用)		
2021/03/31	6	現金	10,000	寄附金収入	10,000	公益目的事業	寄附金		

監査報告

一般財団法人 泉北のまちと暮らしを考える財団
代表理事 宝楽 陸寛 殿

2020年2月3日から2020年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

1. 監査の方法及びその内容

私たちは、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算関係書類（貸借対照表、損益計算書）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算関係書類の監査結果

計算関係書類は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2020年5月26日

一般財団法人 泉北のまちと暮らしを考える財団

監事 計井 芳樹

監事 中野 満

法人名： 一般財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団

貸借対照表

自 2020年 04月 1日 至 2021年 3月31日

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	4,682,766		
流動資産合計		4,682,766	
2. 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			4,682,766
II 負債の部			
1. 流動負債			
流動負債合計		0	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			0
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		3,035,026	
当期正味財産増減額		1,647,740	
正味財産合計			4,682,766
負債及び正味財産合計			4,682,766

法人名： 一般財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団

正味財産増減計算書

自 2020年 04月 1日 至 2021年 3月31日

(単位:円)

科 目	金 額		
正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
受取寄付金		8,008,526	
受取会費		1,200,000	
受取補助金		500,000	
経常収益計			9,708,526
(2)経常費用			
1. 事業費			
支払助成金	6,522,000		
諸謝金	235,000		
支払手数料	54,970		
広告宣伝費	33,000		
通信運搬費	67,392		
印刷製本費	4,940		
旅費交通費	300		
消耗品費	15,488		
基金管理費	693,200		
事務局運営費	400,424		
事業費計	8,026,714		
2. 管理費			
租税公課	4,100		
諸会費	30,000		
雑費	0		
その他経費計	34,100		
管理費計		34,100	
経常費用計			8,060,814
当期経常増減額			1,647,712
評価損益等調整前当期経常増減額			
基本財産評価損益等	0		
特定資産評価損益等	0		
投資資産評価損益等	0		
評価損益等計			0
当期経常増減額			1,647,712
2. 経常外増減の部			
(1)経常外収益			
受取利息	28		
経常外収益計		28	
(2)経常外費用			
経常外費用計		0	
当期経常外増減額			28
当期正味財産増減額			1,647,740
正味財産期首残高			3,035,026
正味財産期末残高			4,682,766

監査報告

一般財団法人 泉北のまちと暮らしを考える財団
代表理事 宝楽 陸寛 殿

2020年4月1日から2021年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

1. 監査の方法及びその内容

私たちは、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算関係書類について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算関係書類の監査結果

計算関係書類は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2021年4月24日

一般財団法人 泉北のまちと暮らしを考える財団

監事 辻井 有樹

監事 中野 満

